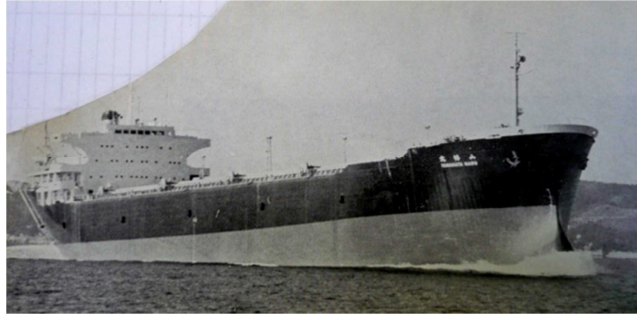


昭和40年 WHEEL HOUSE, CONTROL ROOM

1) W40-01 山播丸 全景

1. 「山播丸」 1)～4) は「船の科学」1965-2 (Vol.18 NO.2) より採取。

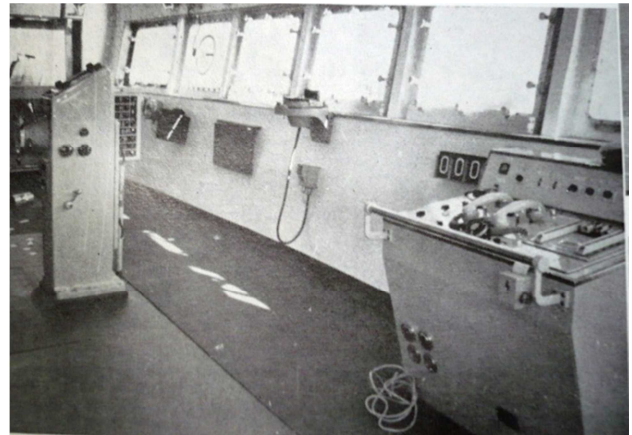
- ・本船は20次石炭運搬船 山播丸 DW 35,750 kt
- ・船主： 山下新日本汽船(株)
- ・建造： 日立造船(株) 因島
昭和40年1月14日 竣工



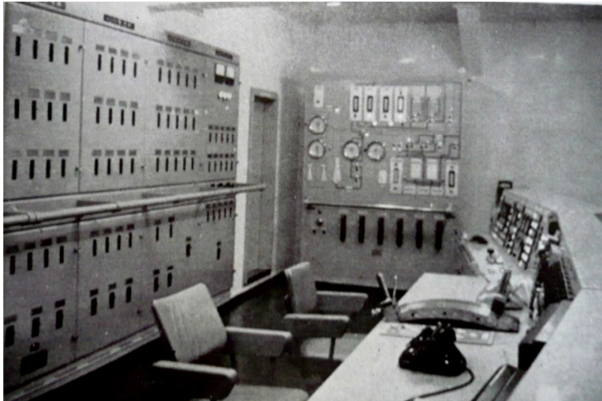
- ・1) は 本船全景、写真が一部切れている。
- ・2) は操舵室で Bridge Console が見える。
- ・3)、4) は機関制御室 配電盤、Control Console などが見える。

2) W40-02 山播丸 WHEEL HOUSE

- ・本船の名前は 船主の山下新日本汽船の 山と 荷主の 八幡製鉄の 幡 から来ているとのこと。



3) W40-03 山播丸 ENG.CONTROL RM



4) W40-04 同左 CONSOLE



2. [AL-SABBIYAH] 5)～7) は「船の科学」1965-3 (Vol.18, No.3) より採取

- ・本船は 輸出油槽船 AL-SABBIYAH (アルサビア) DWT 57,160 Lt
- ・船主： Kuwait Oil Tanker Company
- ・建造： 佐世保重工業(株) 佐世保 昭和40年2月15日 竣工

- ・5) は本船全景。
- ・6) は WHEEL HOUSE 7) は ENGINE ROOM (後部より前方を見る)、Engine Room 手前高圧タービン(右)、低圧タービン (左)、前方右より 操縦盤、エンジン・モニタ・パネル、主配電盤。

5) W40-05

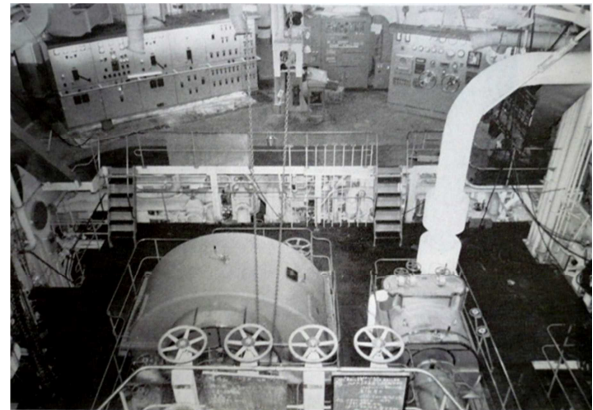
AL-SABBIYAH 本船全景



6) W40-06 AL-SABBIYAH (アルサビア)
WHEEL HOUSE



7) W40-07 AL-SABBIYAH (アルサビア)
ENG.ROOM

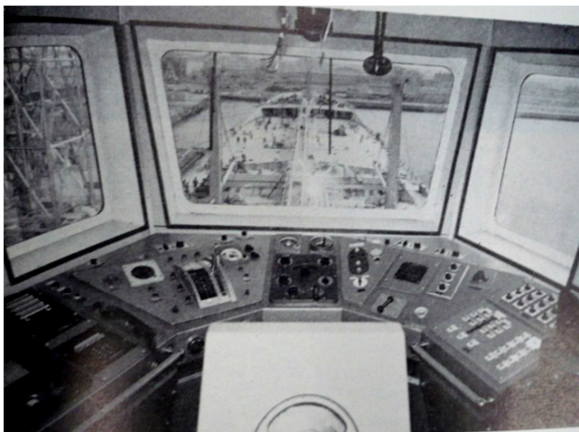


3. [BOLLSTA] 8)、9) は「船の科学」1965-6 (Vol.18, No.6) より採取

- ・本船は自動化タンカー BOLLSTA 49,106 DWT
- ・船主: フレッド・オルセン (ノルウェイ)
- ・建造: 三井造船 (株) 千葉
昭和40年4月6日 竣工

- ・8) は BRIDGE CONSOLE で、飛行機のコック・ピットのようにコンパクトにまとめられている。当時としては斬新なデザインである。
- ・9) は ENG. CONTROL ROOM である。

8) W40-08 BOLLSTA BRIDGE CONSOLE



9) W40-09 BOLLSTA ENG.CONSOLE



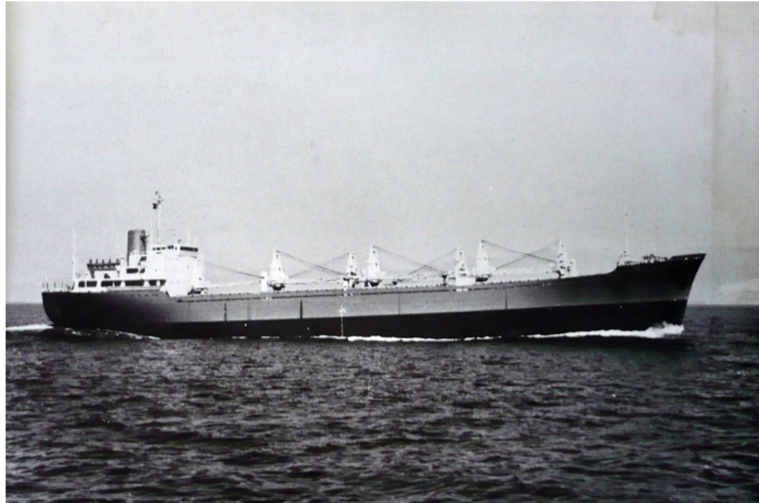
手前は CONSOLE で、後ろの PANEL は監視盤で MIMIC (GRAPHIC 図) を採用している。

4. 「ろざりお丸」 10) ~ 14) は 「船の科学」 1965-7 Vol.18, No.7 より採取。

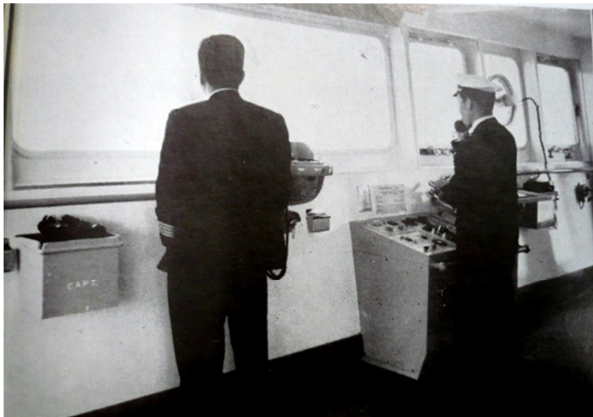
- ・本船は 21次高速定期貨物船 ろざりお丸 (ROSARIO) DW 11,530 kt である。
- ・船主： 大阪商船三井船舶 (株) ・建造： 佐野安船渠 (株) 昭和40年5月4日 竣工

10) W40-10 ろざりお丸 全景

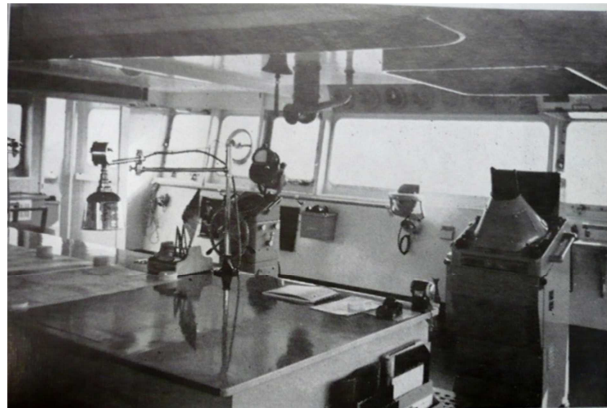
- ・10) は 本船の全景。
当時の高速貨物船である。



11) W40-11 ろざりお丸 WHEELHOUSE

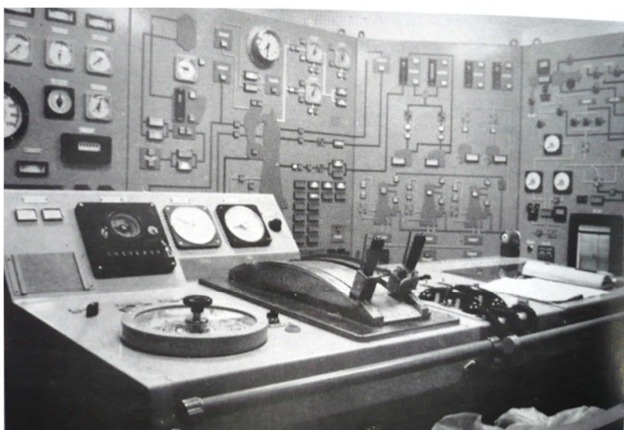


12) W40-12 ろざりお丸 WHEELHOUSE



- ・11) は WHEELHOUSE で、右側に BRIDGE CONSOLE が見える。
- ・12) も WHEELHOUSE で、海図室から見た操舵室である。操舵室と海図室が一体になっている。
- ・13) は ENG.CONTROL ROOM で、手前が主機操縦台で後ろの PANEL は監視盤である。本船も MIMIC PANEL が採用されている。
- ・14) は RADIO ROOM である。CONSOLE 化されている。

13) W40-13 ろざりお丸 ENG.CONTROL RM



14) W40-14 ろざりお丸 RADIO ROOM



5. 「りおでじゃねいろ丸」 15)～18)は「船の科学」1965-7 (Vol.18 No.7)より採取。

- ・本船は 中速定期貨物船 りおでじゃねいろ丸 DWT 11,470 kt
- ・船主： 大阪商船三井船舶 (株) ・建造： 名村造船所 (株) 昭和40年5月22日 竣工

- ・15) は本船全景。
- ・16) は 機関制御室の主機操縦台で、窓を通して 主機が見える。
- ・17)、18) も機関制御室の写真で、17) は配電、給電盤、18) は 諸計器盤である。MIMIC パネルが採用されている。

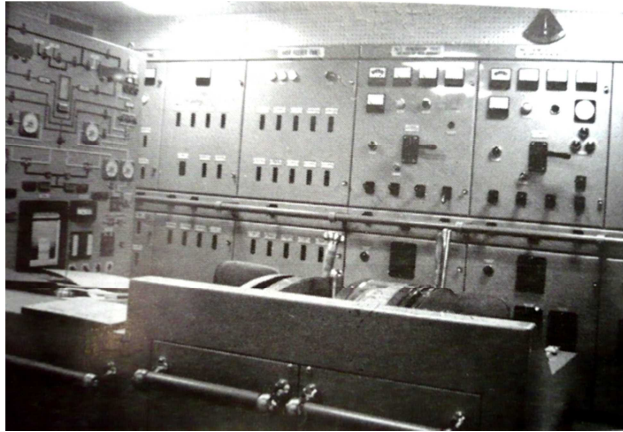
15) W40-15 りおでじゃねいろ丸 本船全景



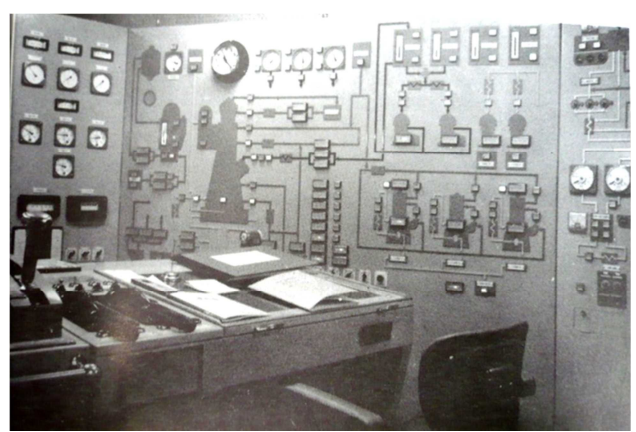
16) W40-16 りおでじゃねいろ丸 機関制御室



17) W40-17 りおでじゃねいろ丸 機関制御室



18) W40-18 りおでじゃねいろ丸 機関制御室



6. 「追浜丸」 19)～21)は「船舶」1966-1 (Vol.39, No.1)より採取。

- ・自動車兼ばら積運搬船 追浜丸 DWT 16,155 kt
- 自動車搭載台数 ab.1,200 台
- 外航自動車運搬船では世界最初のロールオン、ロールオフ方式による自動車荷役装置を採用。

- ・19) は本船全景、20) は操舵室、レーダは1台、21) は機関制御室で操縦台と監視パネルが見える。

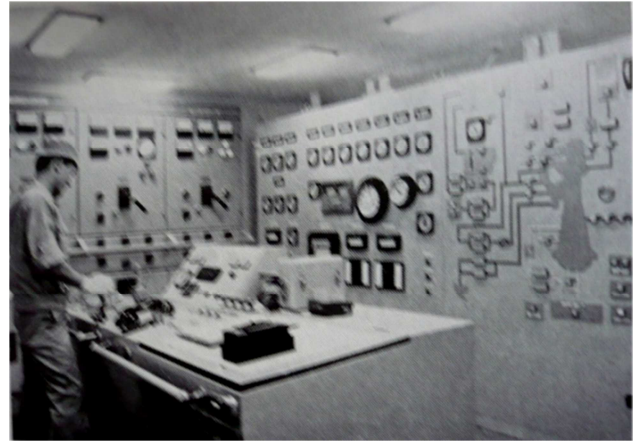
19) W40-19 追浜丸 全景



20) W40-20 追浜丸 操舵室



21) W40-21 追浜丸 機関制御室



7. 「丁抹丸」(DENMARK MARU) 22)、23) は「船の科学」1965-10 (Vol.18, No.10) より採取。

22) W40-22 丁抹丸 全景

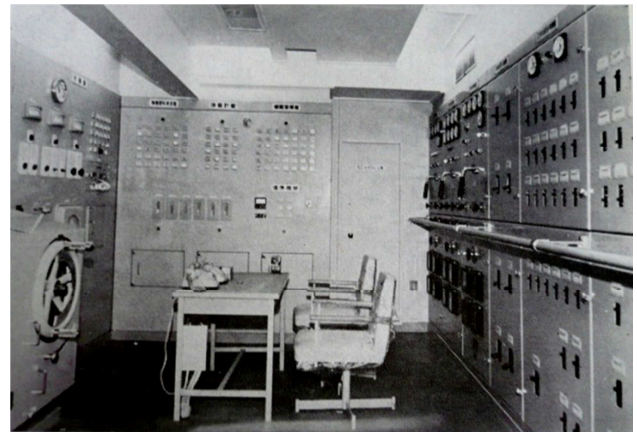
- ・高速定期貨物船 丁抹丸 (DENMARK MARU)
DWT 10,784 kt
- ・船主 : 川崎重工業 (株)
本社工場
昭和40年8月9日 竣工



- ・22) は本船全景

23) W40-23 丁抹丸 機関制御室

- ・23) は機関制御室、右は主配電盤、中央奥は警報盤、左は計器盤、主機操縦台。



[メモ]

- 1) 昭和30年代後半に引継ぎ、中速、高速貨物船が多く建造された。
- 2) タンカーの大型化は進みつつあるが、主流はまだ5万トンクラスである。(昭和37年に日章丸13. 3万トンがあったが、超大型はまだ稀であった。)
- 3) 本格的な自動車運搬船が建造されだした(追浜丸)。
- 4) ばら積船の建造が始まり、荷主に大手鉄鋼会社の名前が見られる。
- 5) Wheel House は昭和30年代の後半からの傾向を引継ぎ、Chart Room との一体化が進んだ。
- 6) アナログ計装が一段と進み、Control Room にはメータを多数装備した Console が設けられた。